

# 双極性障害の再発に及ぼす Perceived Criticism および非機能的態度の影響

著者	成瀬 麻夕
学位名	博士（臨床心理学）
学位授与機関	北海道医療大学
学位授与年度	平成29年度
学位授与番号	30110甲第303号
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00064578/">http://id.nii.ac.jp/1145/00064578/</a>

平成 30 年 1 月 27 日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院心理科学研究科長 殿

主査 中野 倫 仁



副査 坂野 雄 二



副査 冨家 直 明



副査 遊 佐 安一郎



このたび 成瀬 麻夕 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い  
下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 双極性障害の再発に及ぼす Perceived Criticism  
および非機能的態度の影響
- 2 論文要旨 別添

3 学位論文審査の要旨

双極性障害は再発が多く、その要因として重要他者との間の批判的コメントに対する認識や動揺の評価が着目されるようになってきた。その中で「ある個人とその重要な他者との間に生じている批判の認識」である Perceived Criticism Measure (PCM) と非機能的態度の両者と双極性障害の症状と関係については十分に検討されてきていない。

本論文では、はじめに、双極性障害における PCM と非機能的認知に関する先行研究を展望し、①PCM を測定する尺度が未整備、②双極性障害と健常者における PCM が特徴的心理学的要因であるかが明らかでない、③PCM と非機能的認知と症状増悪とがどのように関連しているかが不明という問題点を指摘している。そこで本論文ではこれらの問題点の一部を解決するために以下の 3 領域の研究を行っている。

研究 1 は PCM 日本語版を作成し、健常者 99 名（再検査 64 名）の回答から再検査信頼性と構成概念妥当性が確認され、原版と同様に使用可能であることを明らかにした（一部は認知療法研究で発表済み）。

研究2は双極性障害患者と健常者におけるPCMの特徴を明らかにするもので、双極性障害患者46名、健常者105名の検討から、前者は後者よりPCM得点が有意に高く、躁症状が強いほど重要他者を批判し、批判されていると認識していることが判明した。また、双極性障害患者は批判されていると感じやすく、激しく動揺しやすいことも明らかにしている（一部は精神科診断学で発表済み）。

研究3は双極性障害患者のPCMと非機能的態度が6ヵ月後の抑うつ症状と躁症状に与える影響を明らかにするもので、双極性障害患者29名の横断的検討とその内社会機能評価尺度であるGAF寛解群（GAF $\geq$ 80点）14名の縦断的検討からなる。その結果、非機能的態度評価尺度（DAS-24）における達成動機の高さと重要他者から批判されているという認識が有意に相関しており、完璧主義的傾向が高いものは家族等から批判されていると感じやすいことが明らかにされた。また、現時点で精神症状と生活機能が障害されていなくても、他者からの批判で動揺し、他者への批判により他者が動揺しやすいと認識している患者は6ヵ月後に抑うつ症状を呈しやすいという重要な知見が得られている。

提出された論文を精査し、口頭発表と質疑応答による面接審査を行った結果、以下のような結論を得た。

（1）PCMに関する先行研究を適切に展望し、その基本的尺度の日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検証するとともに（研究1）、双極性障害患者と健常者のPCMと非機能的態度の比較検討を行い（研究2）、双極性障害患者の将来の症状増悪をPCMにより一部ではあるが予測できる可能性を示した（研究3）ことは、論文構成や解析法などにおいて、博士論文としての所定の水準に達している。

（2）PCMは心理尺度として構成するには簡略すぎるという限界はあるが、臨床的に活用できる余地の大きい評価尺度を作成したことの意義は大きい。

（3）双極性障害の再発を予測し、適切な心理教育および予防的支援の導入の可能性を示したことは、十分に評価される。

（4）研究発表会と口頭試問において指摘された意見に対しても適切な回答がなされ、予備審査で指摘した個所に対しても加筆修正が行われ、より完成度の高い論文としてまとめられている。

（5）以上のことから、本論文は十分な科学性と独創性を持つ学術研究の成果であると判断した。

#### 4 最終試験の要旨

最終試験では、学位論文の内容に関する口頭発表および質疑応答を行うとともに、申請者のこれまでの研究業績を精査し、さらに、外国語を含む専門的知識と技術に関して口述試験を行った。その結果、申請者は研究を遂行する能力が十分にあるとの判断に至った。

以上の結果 成瀬 麻夕 は

博士（臨床心理学）の学位を授与する資格のあるもの

と判定する。